

豊郷町隣保館だより

2022年6月24日発行 豊郷町隣保館 ☎0749-35-0611 No.219

慰霊碑に刻まれた戦没者の名前を見つめる中学生。戦争で曾祖父を亡くしたという。



写真:2021年「沖縄慰霊の日」特集から掲載

6月23日は『沖縄慰霊の日』 平和の礎に込められた想い

6月23日、沖縄は「慰霊の日」を迎えました。1945年、太平洋戦争のまった中の4月1日、沖縄本島にアメリカ軍が上陸しました。そこでは、大変激しい戦闘があり、多くの県民が巻き込まれ、県民の4人に1人が命を落としたと言われています。

旧日本軍による組織的戦闘が終わったとされる日が1945年6月23日になります。あれから77年が過ぎ去りました。沖縄では、この戦争を風化させず戦争で亡くなった人をいたみ、戦争を二度と起こしてはならないことを確認するための日を制定することになりました。どの日にすればいいのか。6月23日か、敗戦となった8月15日か、それとも沖縄で降伏文書の調印があった9月7日にするか。また、1972年5月15日、沖縄がアメリカから日本に返還された、その日にするか。議論の末、1974年に「沖縄県慰霊の日を定める条例」を制定し、沖縄での戦いで亡くなった方々の霊を慰める日を6月23日としました。

沖縄ではこの日、最後の激戦地となった糸満市摩文仁の平和祈念公園で沖縄での戦いで亡くなったすべての人々の死を悼む行事が行われます。この平和祈念公園には、平和のもとになる大切なものとして「平和の礎（いしじ）」があります。これには、日本の兵隊だけでなく、沖縄の住民、朝鮮半島から連れてこられた人々、アメリカの兵隊など分け隔てなく名前が刻まれています。6月23日「沖縄慰霊の日」は、この平和の礎に刻まれたすべての人々を慰霊する日なのです。

今、また戦争が起こっています。遠く離れてはいますが、沖縄に想いをはせることが今ここからできる平和への祈りではないでしょうか。